

◆企画名 「ココロオークション×関大軽音団体 SPECIAL LIVE」

日 程 平成 28 年 2 月 19 日 (金)

場 所 KU シンフォニーホール

参加者数 168 名 (ピア・サポータ 8 名、一般参加者 160 名)

目 的

関西大学文化会軽音楽部出身の人気ロックバンド、ココロオークションと現役の軽音系サークルが同じステージに立つ場を提供することで、学内の軽音団体の活性化を狙って行った。また、出演者、来場者同士の新たな交流の機会を提供することを目的として行った。

内 容

学内の軽音団体、軽音楽部 (一部)、ポピュラーミュージック創作研究会、千里山シェルター、PersonaPerdida、groove の 5 団体の協力の下、プロのアーティストと同じステージに立って演奏していただいた。機材・照明は軽音楽部 (一部)、音響は音楽スタジオ BASS ON TOP に依頼した。ゲストには、ココロオークションとクロナガスをお招きした。

効 果

アンケート結果より、参加者の男女比は 5 : 5 であった。学年別に見てみると、1 年次生、2 年次生が多かった。満足度の項目においては、アンケート回答者の 80%以上が「大変満足」「満足」との回答だった。またアンケートのコメントから、本企画が関西大学で軽音楽をしている人に刺激を与えたものであったことがわかり、当初の目的が達成できて良かったと感じる。

改 善 点

- ・観客がより楽しめる有意義な空間作りのため、適宜、観客への声かけを行う。
- ・広報をより効果的に行う。
- ・司会では、敬称をきちんとつける (ココロオークション様、など)。
- ・協力いただいた団体への配慮、気遣いが欠けていた。軽音団体同士がコミュニケーションをとれるような配慮が必要だったと感じる。
- ・協力者との連携が希薄であった。SNS だけで終わらず、役割分担も顔を合わせてしっかりしたほうがよかった。
- ・想定していたスケジュール通りの進行とならなかった。
- ・KUSP 内でのリハーサルを別日しておくべきであった。

感 想

- ・本学学生がプロのアーティストと同じステージに立つという貴重な場を創出できた。
- ・楽屋の飾り付けやおもてなしを喜んでもらった。事前に参加者からメッセージをいただくことはこれからも継続していく方がいいと思う。
- ・リマインドメールの送信、アンケートの作成などかなり後輩に作業をお願いした。もちろん失敗もあったが、作業を覚えてもらういい機会になった。
- ・本学 OB の活躍を目の当たりにすることができた (ココロオークション、クロナガスとも初めて見る人が多かったが、観客が引き込まれていた)。
- ・他団体を巻き込んで大きな企画を行えたことが、今後に向けての自信となった。